

UV・レジンインクの秘める可能性

SC-V7000 は「UV とは思えない発色の良さと滑らかな仕上がり」が魅力

エプソン販売が展開する産業・商業用インクジェットプリンターブランド「SureColor」。サイン業界向けの SC-S シリーズは、エコソルベントインクながら水性インクと同等の色の再現性や、発色の良さに加え、高精度のメディア送りによる稼働安定性を武器に、ユーザーからの支持を長年集めてきた。

2020 年 9 月 17 日には、SureColor 初の UV インク搭載フラットベッドプリンター「SC-V7000」と、レジンインク搭載プリンター「SC-R5050/R5050L」のリリースを発表。サステナビリティの時流に合わせた展開は、溶剤機の領域にとどまらないインクジェットプリンター市場でのさらなるシェア獲得につながっている。

本誌では「SC-V7000」の導入ユーザーにインタビューし、評価ポイントや秘める可能性を追求していく。



ご当地ヒーロー「相双神旗ディネード」の等身大パネル。カラーインクとの掛け合わせを考えた上で、パーニッシュインクの濃さを 1～100% で調整し、目立たせたい部分それぞれに自然なツヤ感を与えている。さまざまな表現演出に取り組み、SC-V7000 のポテンシャルを引き出している

導入の決め手はインクの擦過性の高さ エプソンの誇る色域の広さや稼働の安定性も継承



原町サイン 会長 竹内雄一氏

敷地面積 4,000㎡超という広大な本社工場を福島・南相馬に構える原町サイン。主力事業のインクジェット出力は、IJP の黎明期に当たる 1990 年代から着手し、そのノウハウを 30 年以上にわたり培ってきた。現在保有する大判プリンターは約 30 台に迫り、3.2m 幅以上のスーパーワイド UV 機は 8 台、フラットベッド UV 機は 3 台と、国内有数と言っても過言ではない設備を誇る。

業務の軸となるのは、最大 5m 幅のハイエンド UV インク搭載プリンターで、

ターボリンや FF シートに出力する大型サインの製作。屋台骨を支えるのは、ミドルレンジのエコソルベントインク搭載プリンターによる塩ビシートや透明シートへの出力で、ここに欠かせないマシンがエプソン販売の「SC-S80650」だ。本社に 3 台、東京に 5 台、名古屋に 1 台と、合計で 9 台稼働している。竹内雄一会長は「他社の溶剤機と同じ条件でプリントした際、SC-S80650 は群を抜いて早い。他機 2 台分の生産力を 1 台でカバーできると考えています。早いに仕上がりがシャープで発色も良くきれい。年を追うごとに、顧客から『エプソン機で』という指定は増える一方ですよ」と破顔する。

そして、あらゆる出力物を生産する同社では、ボード素材に対応できるフラットベッドプリンターも主力機のひとつに当たる。現行機の老朽化も進むなか、迷うことなく 2021 年 9 月に導入したの

がエプソン販売の「SC-V7000」だ。その最大の決め手になったのは、インクの擦過性だと竹内会長は言い切る。

「プライマーインクを積まないという選択は、擦過性に自信がなければメーカーはできないのです。擦過性が悪ければ、せっかくきれいに印刷できても安易に剥がれてしまふし、そもそも白インクの下地打ちすら難しくなります」。加えて、確かにプライマーがなければ印刷できない特殊な素材はあるものの、ストレッチボードとアクリル、アルミ複合板にダイレクトプリントできれば十分だとさっぱり。「あくまで個人的な意見ですが、私はどれだけ高画質・高生産なプリンターであっても、プライマーを積んだ時点で選択肢から外します。なぜなら、ランニングコストもかさみ、生産スピードも低下してしまうからです」と続ける。

SC-V7000 の国内導入は、同社が初。これまでに実績がなかったものの、不



——SC-V7000 の評価ポイントを教えてください

伊勢田：サイン関連に求められる要素をクリアしている点です。特に、さまざまなデザインデータを忠実に再現できる色域の広さと、発色の良さが群を抜いていますね。インクの擦過性も高いため、アルミ複合板などに出力後、すぐにカッティングマシンで切削してもエッジが欠けるようなこともないです。

佐藤：インクを細かいサイズで打てるので、UV インクに見られがちな粒状感はあるとなく、凹凸のない滑らかな仕上がりになるのも嬉しいポイントですね。

——実際の使い勝手はいかがでしょう

佐藤：機械に弱い私でも覚えやすかったです(笑)。極端ですが、ボタンを押して噴くだけで印象的な。起動時・停止時のメンテナンスが容易ですから、無駄なインクも生まれませんよね。

伊勢田：さすがに、マシンを導入してから実際の納品物を出力するまでには 1 週間は必要でしたが、操作そのものは 1 日で理解できました。それと、使ってみて一番驚いたのは、メディアとの接触などでセンサーが働いてキャリッジを止めても、イチからやり直さずに同じ部分から続けてプリントできる点です。これってオペレーターには、とても嬉しい機能ですよね。

——どのような案件で SC-V7000 は活躍していますか

伊勢田：スチレンボードとアクリルに対するダイレクト出力が多く、量販店の POP やイベントの装飾関連を主に製作しています。加えて UV インクは白が黄

変しやすいと言われがちですが、SC-V7000 は、UV とは思えないぐらい真っ白にプリントできるので重宝しています。そのポテンシャルを生かし、アクリルに白を出力して導光板とするような活用も行っています。それと、キャリッジのスピードを可変し、パーニッシュで「点字」のようなものも製作できますね。

佐藤：印象的だったのは今年のクリスマス関連で、顧客から多くの指定が入ったことです。発色の良さと粒状感のなさ、さまざまなクライアントから評価されていると肌で感じました。



フィルムに白インクで下地打ちしてカラーインクで出力。パーニッシュインクをスポット印刷したカード

安は全くなかったと竹内会長は述懐する。SC-S80650 を長年稼働してきたなか、サポート体制に不満を抱いたことがなく、今までの営業マンの仕事振りからも、エプソン販売という会社の姿勢に兼ねてより大きな安心感を持っていたからだという。

マシンそのものに対しても、エプソンの誇る色域の広さや発色の良さ、オペレーターの使い勝手を意識した機構、それらをしっかりと継承していると評価する。「私は、このマシンの良さをもっと多くの

人に知ってもらわなければならないと思っています。従来のフラットベッド機と比較しても購入しやすい価格帯ですし、サイン製作で同様のマシンを新規導入するならば、SC-V7000 の一択ではないでしょうか」

今後は、案内板のようなスクリーン印

刷で製作していたものも、擦過性の高さを生かして SC-V7000 での出力に全て置き換えていく。「原町サインと言えば、どんな要望にも対応できる」という体制づくりを考えた際に、欠かせない戦力だと竹内会長は頷く。



SC-V7000

インク種別：UV インク
出力解像度：最大 720 × 1,440dpi
出力速度：最大 43.1m²/h (360 × 720dpi)
出力サイズ：最大 W2,500 × D1,250mm
インク色数：シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック、ライトシアン、ライトマゼンタ、グレー、レッド、ホワイト、パーニッシュ
外形寸法：W4,635 × D2,768 × H1,730mm
重量：1,370kg
標準価格：10,230,000 円（税別）

エプソン販売株式会社

問い合わせ先：050-3155-8100 プリンター購入ガイドインフォメーション
受付時間：平日 9 時～17 時半（同社指定休日除く）

（注）：本媒体上の他者商標の帰属先は、エプソンのホームページをご確認ください

